

令和4年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立栄小学校

●全国学力学習状況調査(小学校第6学年・中学校第3学年)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。	39	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は都より1ポイント上回っている。 思考、判断、表現力を問う問題においては、都の正答率を上回る問題が多い。「読むこと」については都平均2.7ポイント上回っている。年2回、読書旬間を設けて取り組んでいる成果であると考えられる。「話すこと・聞くこと」についても1.4ポイント上回っており、過去の研究テーマである「伝え合う児童の育成」で得られた力が定着していると考えられる。定期的な漢字の書き取りの反復練習や、小テストの実施も成果として表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 短答式、記述式での無回答率が高く、特に想像して思ったこと、自分が考えたことを文章にすることに課題がある。話して相手に伝える事ができても、文章として表現することを苦手としている児童も多い。例年継続している読書旬間や、要旨をまとめる学習、新聞の感想を書く学習などを効果的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成していく必要がある。また、国語科だけでなく、どの教科においても、「自分の考えを書く」活動を大切に指導を行っていく。
	1四 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。	54.3		
	2三 表現の効果を考える。	63.8		
	3三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を分の中で正しく使う。	63.8		
算数・数学	2(3) 果汁が含まれている飲み物を半分にした時の、果汁の割合について正しいものを選ぶ。	33.3	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は都より2ポイント上回っている。領域別にみると、「数と計算」は3.9ポイント、「変化と関係」は2.6ポイント上回っている。基礎的・基本的な内容の習熟を地道に行うことや、少人数指導できめ細やかに指導をしていることが力の定着につながっていると考えられる。 毎年4回行っている学力診断テストで、定期的に既習事項を振り返ることができている。思考・判断・表現や記述式の正答率が高く、ノート指導や考えを伝え合う活動の成果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合や図形の学習では、概念やイメージをとらえられていないため、具体物を用いた指導が必要である。公式などは、単元の学習だけでは理解が定着しないので、朝学習や診断テストなどでの振り返り、他の単元でも関連付けて指導を行う必要がある。 説明を書く、理由を書く問いに対し、正答率が高い反面、無回答率も高いことから、理由が書ける児童とそうでない児童の差が大きいと考えられる。苦手な児童には、支援をしながら自分の言葉で書くことを習慣づけ、自信と理解につなげていく。
	1(4) 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。	47.6		
	4(1) 示されたプログラムについて、正三角形をかきことができる正しいプログラムに書き直す。	52.4		
	2(4) 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180ml入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く。	56.2		